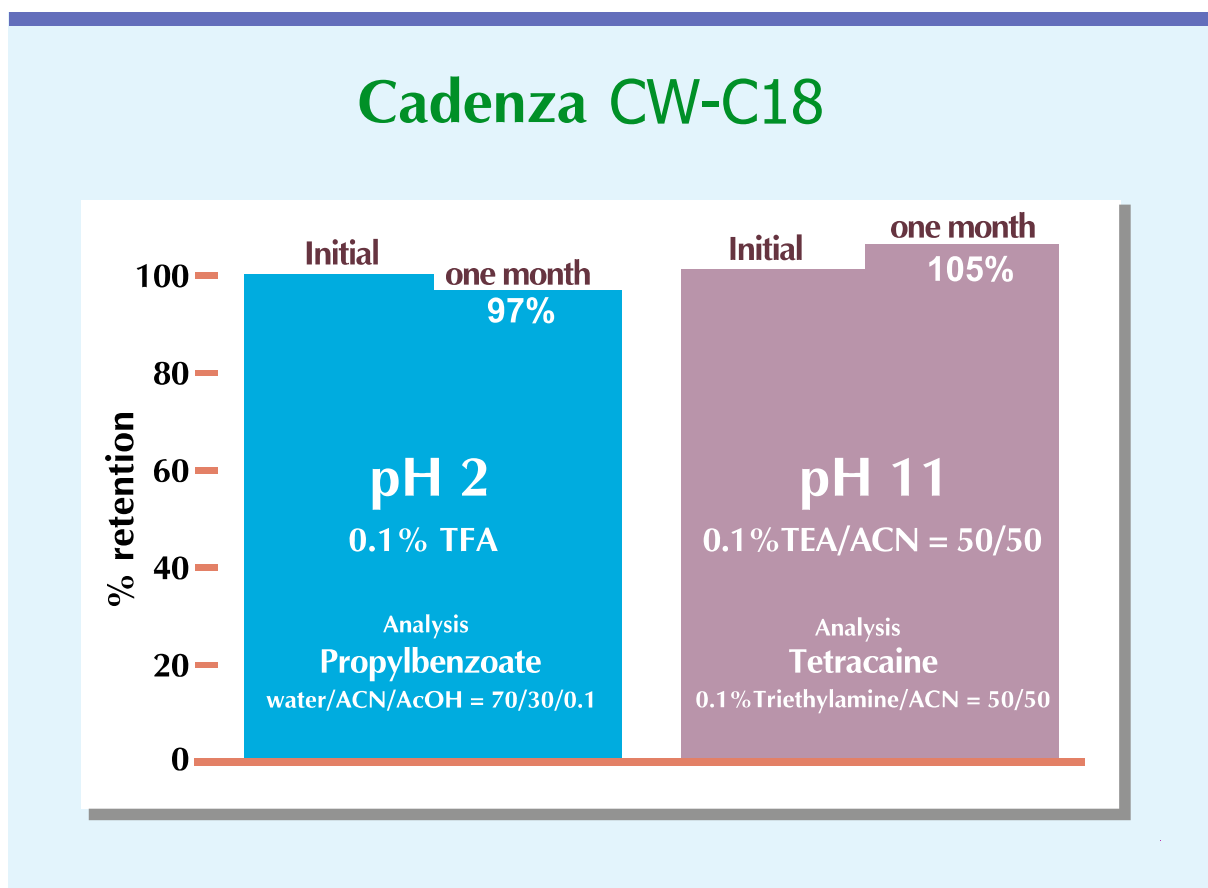


Cadenza CW-C18のpH特性



Cadenza CW-C18 は細孔径30nm, 粒子径3umによる高分解能ODSカラムです。固定相のエンドキャッピングは、Cadenza CD-C18のために開発され、pH特性に優れた「ポリメリックエンドキャッピング」技術を採用しています。

【耐酸性】

pH 2における耐酸性は、ほとんど保持の変化が認められないほどの優れています。プロテオーム解析におけるペプチドマッピングに必要な 0.1% TFA移動相で長期間の安定した分析が期待できます。

【耐アルカリ性】

標準的細孔径12nmのCD-C18に比べて30nmのCW-C18には、ポアサイズが大きいことから2nm以下のマイクロポアが少ないメリットがあります。したがってCW-C18はエンドキャッピング効率が非常に高く、残存シラノール量が少ない特長があります。

耐アルカリ性は残存シラノール量が大きな影響を与えます。ワイドポアのCW-C18は、独自のエンドキャッピングにより、高いアルカリ耐久性を示します。トリエチルアミン(pH 11)の移動相を用いて、テトラカインのような塩基性化合物も長期的に安定した分析が可能です。

Cadenza CW-C18は、低分子化合物の分離においても、酸性・アルカリ性移動相による耐久性の高い分析が期待されます。